

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

1. 実践校について

実践校名	ながのけんあなんこうとうがっこう 長野県阿南高等学校		
学科名		生徒数	学級数
普通科		285 名	9

2. 実践研究の対象

全校生徒

3. 実践研究の実施経過

	月	実 施 内 容
平成 27 年	4 月	○調査研究準備会 調査研究の趣旨・目標等についての共通理解を図る。 調査研究の内容、実施計画、実施体制等の検討 ○第 1 回社会参画推進委員会（校内） 調査研究の内容、実施計画、実施体制、成果検証方法等の確認 役割分担等の打ち合わせ
	6 月	○学校広報誌「阿南高校だより 4～5 月号」の発行
	9 月	○学校広報誌「阿南高校だより 6～7 月号」の発行
	10 月	○学校広報ポスター「阿南高校フォトだより」の発行 ○学校案内広報誌「阿南高校案内リーフレット」の発行 ○保護者アンケートの実施 ○第 2 回学校評議員会での情報発信、意見聴取
	11 月	○近隣中学校生徒・保護者アンケートの実施 ○中学校訪問での情報発信
	12 月	○第 2 回社会参画推進委員会（校内） 進捗状況、計画変更等の確認、 意識調査（生徒対象）の内容・方法等の検討 ○生徒アンケートの実施 ○阿南高校協力会専門委員会での情報発信、意見聴取
平成 28 年	1 月	○第 3 回学校評議員会での外部評価 ○意識調査（生徒対象）の実施
	2 月	○学校評価の実施 ○第 3 回社会参画推進委員会（校内）

		意識調査（生徒対象）を基に生徒の変容を分析 本年度の調査研究のまとめ、完了報告書の作成
	3 月	○完了報告書の提出

4. 実践研究の実施体制

（1）社会参画推進委員会（校内）

校長、教頭、教務係、コース主任、関係教科主任、学年主任、関係分掌主任、キャリア教育担当、部活動顧問会代表

○全体調整・広報・評価は、主に教頭・教務係が担当する。

○個別の学習・活動については、関係のコース・教科・学年・分掌・部(同好会)を中心に推進する。

（2）主な連携先

阿南町（地域おこし協力隊を含む）、泰阜村、下條村、近隣町村社会福祉協議会及び各施設、県立阿南病院、大下條保育園、阿南町商工会、NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター、日本福祉大学、御供結いの会、南宮老人クラブ、泰阜太鼓、新野雪祭り保存会、阿南高校協力会、阿南高校同窓会

5. 教育委員会等として取り組んだ内容

- ・実践校に対して調査研究の充実に向けた指導・助言を行った。
- ・産業界、行政、学校の代表者が出席する会議において、調査研究結果を発表し、普及を図った。
- ・報道機関等への情報提供により広報活動を行い、実践校の調査研究成果の普及を図った。

6. 実践研究の評価等

（1）実施体制について

- 校内に社会参画推進委員会を設置して調査研究を実施した。本校では以前から、福祉コースを中心に地元自治体や社会福祉施設・NPO 法人との連携、総合的な学習の時間や特別活動を中心に地域の奉仕団体などとの連携が行われてきた。今年度、昨年度に引き続き、社会参画推進委員会を窓口新たな連携先を開拓し、新規事業を展開したが、さらなる連携先について開拓を進める必要がある。
- 調査研究推進に向けた意識は、今まで実践していたものを基礎に行われるものであり、全教職員に一定程度共有されているが、事業としての調査研究については、直接携わる教職員とそれ以外の教職員には意識の違いが大きい。その改善策として、本年度の取り組みの総括、来年度の取り組みについての校内研修会を持つことが必要と考えている。校内研修会において、本年度実施できなかったキャリア教育の有識者の講演等について次年度は企画し、指導助言をいただくことも有効であると考えられる。

(2) 実施計画・内容について

- 特定の時期・特定の生徒に調査研究事業が集中する傾向がある。教科の特性、学校行事の関係からやむを得ない面もあるが、総合的な学習の時間、特別活動を含めて、事業の日程的にはできるだけバランスよく配置されるように、また全校生徒が関われるプログラムの開発など社会参画推進委員会で検討していく必要がある。
- 教科横断的な学習プログラムについては、以前から行われてきた福祉科と家庭科、福祉科と商業科、福祉科と総合的な学習の時間のほかに、音楽科における郷土芸能への取り組み、など昨年より強化され実践された。次年度も引き続き、普通教科も含め、HR活動、生徒会活動等の有機的な関連の深化を図っていきたい。
- 生徒の社会参画への意識を高めるためには、与えられたプログラムを行うだけでなく、生徒会などが中心となり、自ら企画し、地域と調整をして、行動することを充実させることが必要である。

(3) 成果の検証方法について

- 個別の学習プログラムについては、レポートや発表会等で成果を検証した。
- 調査研究の全体については、職員アンケートや生徒・保護者アンケートのほか、学校評議員会や阿南高校協力会専門員会での意見聴取、外部評価を実施した。また、生徒の意識の変容については、昨年度と比較検討するために、同じ項目での調査を実施し、社会参画委員会で分析・検証を行った。次年度は、連携先、有識者などからの評価なども含め、地域からの評価をいただき、更なる有効な活動につなげたいと考える。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：長野県阿南高等学校（普通科）

概要

- 高齢化・過疎化の進む本地域において、地域住民との様々な交流や協働的な活動をととして、地域の産業・伝統文化・暮らしの営みへの理解を深め、地域の担い手としての資質を養う学習プログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

- 地域での体験的・実践的な社会参画の機会をととして、郷土に愛着と誇りを持ち、地域社会の活性化・発展に寄与する態度や力を育成する。
- 学習活動のまとめやプレゼンテーションを経験することをととして、主体性や社会性を養い、主体的に地域社会の課題に関わろうとする態度を育成する。
- 地域住民との交流をととして、地域で暮らし働く人々の思いへの理解を深めるとともに、他者から認められることから得られる自己有用感を実感させる。

学習プログラムの主な内容

Ⅰ 地域の産業・観光・伝統文化等の学習活動

情報ビジネスコース 3 年生が、「課題研究」の一環として、地元農家で田植えから稲刈りまでの継続的な農業体験、地域住民との協働による正月飾りづくりなどを行う。活動のまとめとして、年度末の課題研究発表会でプレゼンテーションを行う。

各クラブ（同好会）が地域の行事等に積極的に参加するように調整を行い、地域との交流を深める。

Ⅱ 地域の福祉・暮らしの営み等の学習活動

福祉コース 2・3 年生が、老人ホーム・保育園等の福祉施設のほか、盲導犬訓練施設や日本福祉大学を訪問して体験実習を行う。10 月には、3 年生の手話学習に合わせて、手話ダンスグループ「HANDSIGN」の公演を開催し、全校で鑑賞した。その他、地元農家での 1 日生活体験・支援活動や高齢者によるわら細工体験などを行い、活動の成果を 2・3 年ともに年度末に課題研究発表会を実施して発表する。

Ⅲ 地域の郷土芸能の学習活動

音楽選択 2 年生が、郷土芸能団体「泰阜太鼓」の方々から継続的な指導を受け、その成果を校内の郷土芸能鑑賞会で発表する。また、郷土芸能同好会が「新野の雪祭り」（国重要無形民俗文化財）保存会から指導を受け、7 月の全国高等学校総合文化祭、11 月の長野県高等学校総合文化祭への出演のほか、地域の行事等に積極的に参加し公演を行う。

Ⅳ 地域住民との協働による環境美化活動

総合的な学習の時間を活用して、学年単位で地域住民との協働による通学路周辺のごみ拾いを中心とした環境美化活動を行う。また、生徒会執行部が地域住民と協働して学校前道路沿いの花壇整備と花の定植を行い春・秋の 2 回行い、なお、育てた花を文化祭で販売する。

学習プログラムの成果の概要

- 地域での体験的・実践的な社会参画の機会をとおして、郷土に愛着と関心を持ち、地域社会の活動に積極的に関わりたいと考える生徒が昨年以上に増加した。
- 学習活動のまとめやプレゼンテーションを経験することをとおして、人前で自分の意見を主張することに対して自信を深めるとともに、主体的に地域社会の課題に関わろうとする生徒が増えた。
- 地域住民との交流をとおして、地域で暮らし働く人々の思いへの理解を深め、地域から認められ、感謝され、必要とされる自己有用感を実感する生徒が増えた。
- 地域の人材や地域の伝統的な資源を活用する学習活動をとおして、学校と地域の相互理解や協力関係を深めることができた。
- 学校広報誌等を活用して学習活動の取り組みを地域へ発信したほか、新聞などのメディアで取り上げられることにより、地域の特性や魅力を広く伝えることができた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究 実施方法等

1. 実践校について

実践校名	なかのけんまつかわこうとうがっこう 長野県松川高等学校		
学科名	生徒数	学級数	
普通科	4 7 1	1 2	

2. 実践研究の対象

- (1) 3 学年 選択科目（学校設定科目）「人文社会研究」24 名
 課題探究エリア選択者 35 名
 テクノ基礎エリア必修科目「食文化」33 名

(2) 2 学年 159 名

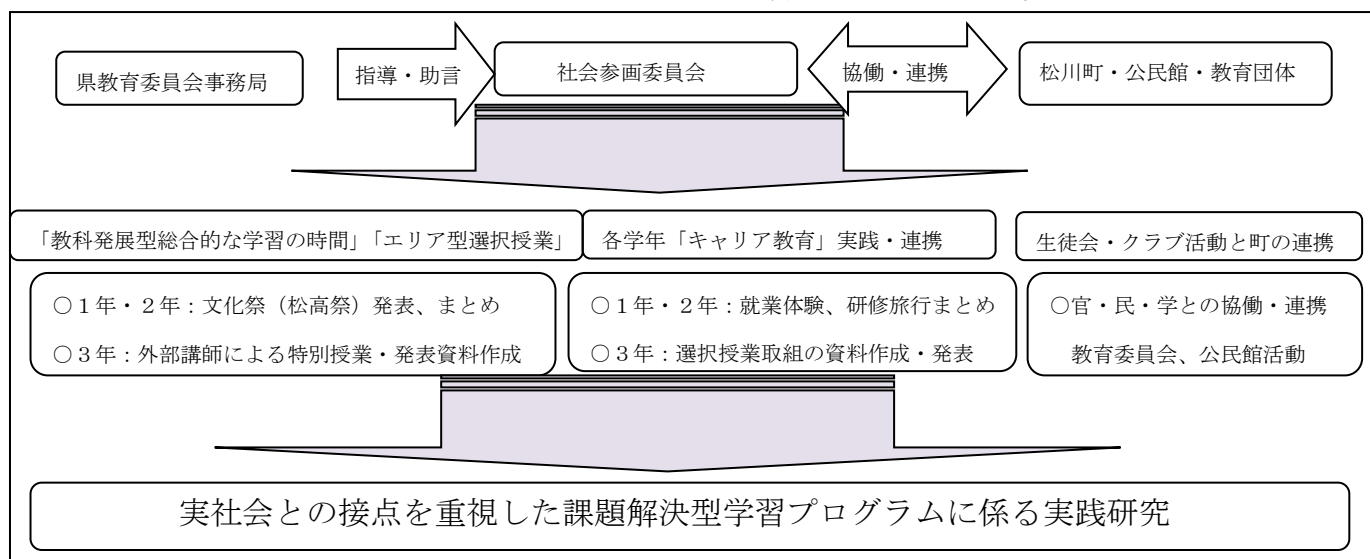
(3) 1 学年 151 名

3. 実践研究の実施経過

	活動内容（会議・内容）	備 考
27 年 5 月中旬	第 1 回社会参画委員会の開催	
6 月～3 月	事業の実践	
10 月上旬	兵庫県西宮今津高等学校視察	
12 月中旬	「全校研究発表会」の開催	
28 年 1 月上旬	生徒対象意識調査の実施	
2 月中旬	第 2 回社会参画委員会	
2 月下旬	事業総括・報告書作成	

4. 実践研究の実施体制

2 年目となる研究においては、社会参画委員会を設置し全学年が関わり合いながら実施できるような体制づくりを行った。特に、各学年が地域（官・民・学）と協働・連携を通じ地元松川町の地域理解を深めることにより、今後の主権者意識の涵養や実社会とのつながりを意識した体験的・実践的な学習活動を研究した。



5. 教育委員会等として取り組んだ内容

- ・実践校に対して調査研究の充実に向けた指導・助言を行った。
- ・産業界、行政、学校の代表者が出席する会議において、調査研究結果を発表し、普及を図った。
- ・報道機関等への情報提供により広報活動を行い、実践校の調査研究成果の普及を図った。

6. 実践研究の評価等

- (1) 昨年度とは異なり、全学年が実践研究に関われたことが最大の成果であり、各学年の学習成果を昨年 12 月に「全校生徒発表会」を開催した。1 学年は、全員参加による就業体験（ワークスタディ）のまとめを「社会と情報」および本校独自の「教科発展型総合的な学習の時間」の授業で行い、各自がパワーポイントを作成した。2 学年は、戦後 70 年という節目を迎えるなか、沖縄研修旅行のまとめを生徒全員が「フォト短歌」（写真と短歌）を作成した。さらに、「松高平和宣言」を学年で行った。3 学年は、昨年に引き続き、地元の行政や教育・福祉、また歴史、食文化などを学ぶ「地域学習」プログラムから実社会とつながりを意識し、課題を見いだせるような学習活動がなされた。
- (2) 今年度、わらべ館開館 20 周年記念「故郷四番プロジェクト」に取組み、鳥取で行われた高校生全国大会に出場し、地元松川町の地域学習を生かした発表を行った。
- (3) 効果測定として実施した中間アンケート（自由記述含む）では、「地域学習が自分の居住する地域に興味を持つことに繋がる」「異文化を理解するには、まず地元を知ること」「多文化との共生社会に必要なこと“異なる他者への思いやり”」など、全員から前向きな回答が得られた。多方面にわたる地域外部講師を招聘しての講義が実現できた。
- (4) 今年度は、年度当初より職員間において研究の合意形成がなされスムーズに実践に取り組めた。本事業は終了となるが、次年度以降も全校生徒による「発表会」等のプレゼンテーションの機会が継続できるよう努めたい。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：長野県松川高等学校（全日制普通科）**概要**

- 実社会や自校を取り巻く地域の行政、教育、産業、福祉などにおける課題や地域資源の可能性を探求しながら、主体的に生きていく方法を考え、主権者として、また地域の担い手として生きていくことを学習するプログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

- 社会的経験や体験学習を通じ、実社会の課題やその課題について探求する態度を育成する。
- 地域社会との積極的な連携・協働を通じ、主体的に学習する態度を育成する。
- 高校生が地元地域の行政・教育・歴史への興味・関心を育成する。

学習プログラムの主な内容

- ① 「教科発展型総合的な学習の時間」の活用
本校独自の「総合的な学習の時間」は、各教科との関連を重視させたものである。1 年次は「現代社会」に関連させ、7 月に実施した文化祭において 1 学年展示で発表した。また、11 月に「ワークスタディー」（就業体験）を 1 学年全体で実施し、各自がパワーポイントを作成し発表を行った。
- ② 「進路チャート」とキャリア教育
本校独自で作成している各学年「進路チャート」を基に、キャリア教育と関連させている。外部の講師を招聘しての講演会や特別授業を行った。
- ③ 松川町の「官・民・学」との協働・連携
教育委員会主催の通学合宿における協力体制の構築や公民館活動との連携。生徒会およびクラブ活動と松川町、町民有志の「東北を支援する会」合同の被災地支援活動の実施。
- ④ 他県実践研究先進校の視察
兵庫県立西宮今津高等学校視察により、生徒自らが地元地域商店街の抱える課題を共有しながらプロジェクトを立上げることにより、生徒の社会参画の意識が向上できた実践例の視察。
- ⑤ 発展的学習
戦後 70 年の節目に合わせ 2 学年沖縄研修旅行のまとめを「フォト短歌」と「松高平和宣言」という形で実施。
- ⑥ 講演会
本研究の全校生徒発表会の際、地域連携マネージャーで飯田航空宇宙プロジェクトマネージャー松島信雄氏による講演会の実施。

⑦ フィールドワーク

ワークシートを利用し、グループごとに扱う課題（研究テーマ）を設定し、フィールドワークを実施。

⑧ 全校生徒発表会（プレゼンテーション）

④～⑥を基に、全校生徒が教科発展型総合的な学習の時間を利用し、パワーポイントを作成し、各学年の代表者が生徒全校発表会で発表。

学習プログラムの成果の概要

- 多方面からの講師を招聘しての特別授業等を通じて、松川町の行政や歴史に係る生徒の興味・関心が高まりことで探求心の向上が見られた。
- 地域学習の中からや1・2年の就業体験を通じ、地元地域とのかかわり方を学習するきっかけとなり、生徒自らの進路活動に繋げることができた。
- 地域における官・民・学の連携や協働に係る体験的・実践的な活動に参加することにより、地域から寄せられる要望など直接聞きとることができた。
- 他県実践校の視察から年間を通じて実社会と接点をもつ授業が、特に教員側にとって大いに参考となった。
- 昨年度に引き続いた地元地域に係る学習をワークシートで行った。また、特別授業や講演などメモを取りながら聴き、自らの意志や感想を述べることで、また感謝の気持ちや思いを発信することができた。
- プレゼンテーション能力向上や言語活動を含む探求的学習ができた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

1. 実践校について

実践校名	(ながのけんほくぶこうとうがっこう) 長野県北部高等学校		
学科名	生徒数	学級数	
普通科	290	9	

2. 実践研究の対象

1年 普通科 111名 3クラス
2年 普通科 99名 3クラス

3. 実践研究の実施経過

(1) 実施経過の概要

平成 27 年 3 月	平成 26 年度「地域授業」の反省とまとめ及び、次年度学習内容の編成 「地域授業」の学習内容をさらに深めるための、進路学習やクラブ活動との連携を検討することとした。また、教科との接続として、家庭科、情報科との連携を考えることとした。
平成 27 年 4 月～12 月 平成 27 年 8 月～10 月	1・2 学年の総合的な学習の時間を使った「地域授業」の実践 2 年郷土料理講座及び、調理部生徒による飯綱町商工会主催、飯綱町・北部高校共催地域資源活用講座「地ドレッシング製造講習会」への参加（計 6 回）
平成 27 年 10 月 22 日	2 年ボランティア講座生徒による、飯綱町社会福祉協議会主催の「ふれあい広場」へのスタッフ参加
平成 27 年 10 月 29 日 平成 28 年 2 月 6 日	2 年りんご栽培講座生徒の、飯綱町商工会主催、飯綱町・北部高校共催「いいづなリンゴスイーツブランド化事業」開発会議への参加
平成 28 年 1 月～2 月	平成 27 年度「地域授業」のまとめ 1 年「社会と情報」において、「北部高校の魅力を伝える」をテーマとしたプレゼンテーションを制作し、情報発信を行う。
平成 28 年 3 月 4 日	平成 27 年度「地域授業発表会」の実施

(2) 1年地域授業の実施経過

学期	月	日	曜日	クラス	時限	内容	指導方法
一学期	4	14	火	2組	4	オリエンテーション	担任・担当者による指導
		16	木	3組	4	オリエンテーション	担任・担当者による指導
		17	金	1組	4～6	癒しの森散策・心理効果測定	役場職員・大学講師の講義
		21	火	2組	4	先輩講話①	本校卒業生による講話
		23	木	3組	4	先輩講話①	本校卒業生による講話
		28	火	2組	4～6	環境保全研究所見学	学芸員指導による見学・実習
	5	30	木	3組	4～6	環境保全研究所見学	学芸員指導による見学・実習
		1	金	1組	4	地域の自然と歴史について	野尻湖博物館の学芸員による講義
		7	木	3組	4～6	りんごの摘花	ビデオの学習及びりんご園での営農指導員による実習
		8	金	1組	4～6	りんごの摘花	ビデオの学習及びりんご園での営農指導員による実習
		12	火	2組	4～6	りんごの摘花	ビデオの学習及びりんご園での営農指導員による実習
		14	木	3組	4～6	地域の自然と歴史について	野尻湖博物館の学芸員による講義
	6	19	火	2組	4～6	地域の自然と歴史について	野尻湖博物館の学芸員による講義
		26	火	2組	4～6	鍛冶屋体験・坐禅体験	地元講師による体験学習
		28	木	3組	4～6	鍛冶屋体験・坐禅体験	地元講師による体験学習
		5	金	1組	4～6	鍛冶屋体験・ニュースポーツ体験	地元講師による体験学習
		11	木	3組	4～6	坐禅体験・鍛冶屋体験	地元講師による体験学習
		12	金	1組	4～6	坐禅体験・鍛冶屋体験	地元講師による体験学習
二学期	7	16	火	2組	4	りんごの摘果①	りんご園での営農指導員による実習
		18	木	3組	4	りんごの摘果①	りんご園での営農指導員による実習
		19	金	1組	4	りんごの摘果①	りんご園での営農指導員による実習
		23	火	2組	4～6	坐禅体験・鍛冶屋体験	地元講師による体験学習
		25	木	3組	4～6	ニュースポーツ体験・ナウマンゾウ博物館見学	学芸員及び地元講師による体験学習
		26	金	1組	4～6	ナウマンゾウ博物館見学・坐禅体験	学芸員及び地元講師による体験学習
	8	30	火	2組	4～6	ニュースポーツ体験・ナウマンゾウ博物館見学	学芸員及び地元講師による体験学習
		7	火	2組	4～6	ナウマンゾウ博物館見学・ニュースポーツ体験	学芸員及び地元講師による体験学習
		9	木	3組	4～6	ナウマンゾウ博物館見学・ニュースポーツ体験	学芸員及び地元講師による体験学習
		10	金	1組	4～6	ニュースポーツ体験・ナウマンゾウ博物館見学	学芸員及び地元講師による体験学習
		14	火	2組	4	りんごの摘果②・草刈り	りんご園での営農指導員による実習
		16	木	3組	4	りんごの摘果②・草刈り	りんご園での営農指導員による実習
	9	17	金	1組	4	りんごの摘果②・草刈り	りんご園での営農指導員による実習
		25	火	2組	4	文化祭での地域展準備	担任・担当者による指導
		27	木	3組	4	文化祭での地域展準備	担任・担当者による指導
		28	金	1組	4	文化祭での地域展準備	担任・担当者による指導
		30	金	1～3組	1～6	文化祭での地域展発表	地域の来場者への説明等
		3	木	3組	4	デイサービスセンター訪問準備	担任・担当者による指導
	10	4	金	1組	4	デイサービスセンター訪問準備	担任・担当者による指導
		8	火	2組	4	デイサービスセンター訪問準備	担任・担当者による指導
		10	木	3組	4～6	牟礼・三水デイサービスセンター訪問	センター職員による見学・体験指導
		11	金	1組	4～6	牟礼・三水デイサービスセンター訪問	センター職員による見学・体験指導
		15	火	2組	4～6	牟礼・三水デイサービスセンター訪問	センター職員による見学・体験指導
		17	木	3組	4～6	手話	障がい者協会・手話サークルの方による指導
	11	18	金	1組	4	点字①	盲学校職員による指導
		24	木	3組	4	点字①	盲学校職員による指導
		25	金	1組	4	点字②	盲学校職員による指導
		6	火	2組	4～6	手話	障がい者協会・手話サークルの方による指導
		8	木	3組	4	点字②	盲学校職員による指導
		9	金	1組	4～6	手話	障がい者協会・手話サークルの方による指導
三学期	12	13	火	2組	4	りんごの葉摘み	りんご園での営農指導員による実習
		15	木	3組	4	りんごの葉摘み	りんご園での営農指導員による実習
		16	金	1組	4	りんごの葉摘み	りんご園での営農指導員による実習
		20	火	2組	4	点字①	盲学校職員による指導
		23	金	1組	4	半年間の活動のまとめ	担任・担当者による指導
		27	火	2組	4	点字②	盲学校職員による指導
	1	29	木	3組	4～6	そば打ち・紙芝居	地元講師・読み聞かせサークルの方による指導
		30	金	1組	4～6	そば打ち・紙芝居	地元講師・読み聞かせサークルの方による指導
		5	木	3組	4	半年間の活動のまとめ	担任・担当者による指導
		6	金	1組	4～6	紙芝居・そば打ち	地元講師・読み聞かせサークルの方による指導
		10	火	2組	4	半年間の活動のまとめ	担任・担当者による指導
		12	木	3組	4～6	りんごの収穫	りんご園での営農指導員による実習
	2	13	金	1組	4～6	りんごの収穫	りんご園での営農指導員による実習
		17	火	2組	4～6	りんごの収穫	りんご園での営農指導員による実習
		24	火	2組	4～6	そば打ち・紙芝居	地元講師・読み聞かせサークルの方による指導
		26	木	3組	4～6	そば打ち・紙芝居	地元講師・読み聞かせサークルの方による指導
		1	火	2組	4～6	紙芝居・そば打ち	地元講師・読み聞かせサークルの方による指導
		3	木	3組	4～6	おやき体験・わら細工体験	地元講師の方による製作指導
三学期	3	4	金	1組	4～6	おやき体験・わら細工体験	地元講師の方による製作指導
		8	火	2組	4～6	平和学習	担任・担当者による指導
		10	木	3組	4～6	平和学習	担任・担当者による指導
		11	金	1組	4～6	平和学習	担任・担当者による指導
		15	火	2組	4～6	おやき体験・わら細工体験	地元講師の方による製作指導
		17	木	3組	4～6	わら細工・おやき体験	地元講師の方による製作指導
	4	24	火	2組	4～6	わら細工・おやき体験	地元講師の方による製作指導
		8	金	1組	4～6	わら細工・おやき体験	地元講師の方による製作指導
		14	木	3組	4	先輩講話②	本校卒業生による講話
		15	金	1組	4, 6	先輩講話	本校卒業生による講話
		19	火	2組	4	先輩講話②	本校卒業生による講話
		21	木	3組	4～6	アップルパイ・リンゴジュース作り	家庭科教師による実習・加工工場実習
	5	22	金	1組	4～6	アップルパイ・リンゴジュース作り	家庭科教師による実習・加工工場実習
		26	火	2組	4～6	アップルパイ・リンゴジュース作り	家庭科教師による実習・加工工場実習
		28	木	3組	4	自分発見作文	担任・担当者による指導
		29	金	1組	4	自分発見作文	担任・担当者による指導
		2	火	2組	4	自分発見作文	担任・担当者による指導
		4	木	3組	4～6	地域新聞作り	担任・担当者による指導
	6	5	金	1組	4	進路学習	担任・担当者による指導
		12	金	1組	4～6	地域新聞作り	担任・担当者による指導
		16	火	2組	4～6	地域新聞作り	担任・担当者による指導
		23	火	1～3組	3	地域新聞作り	担任・担当者による指導
		24	水	1～3組	3	地域新聞作り	担任・担当者による指導
		25	木	1～3組	3	地域新聞作り	担任・担当者による指導
三学期	7	26	金	1～3組	3	地域新聞作り	担任・担当者による指導
		29	月	1～3組	3	地域新聞作り	担任・担当者による指導
		3	木	1～3組	2, 3	地域授業発表会準備	担任・担当者による指導
		4	金	1～3組	3	地域授業発表会	担任・担当者による指導

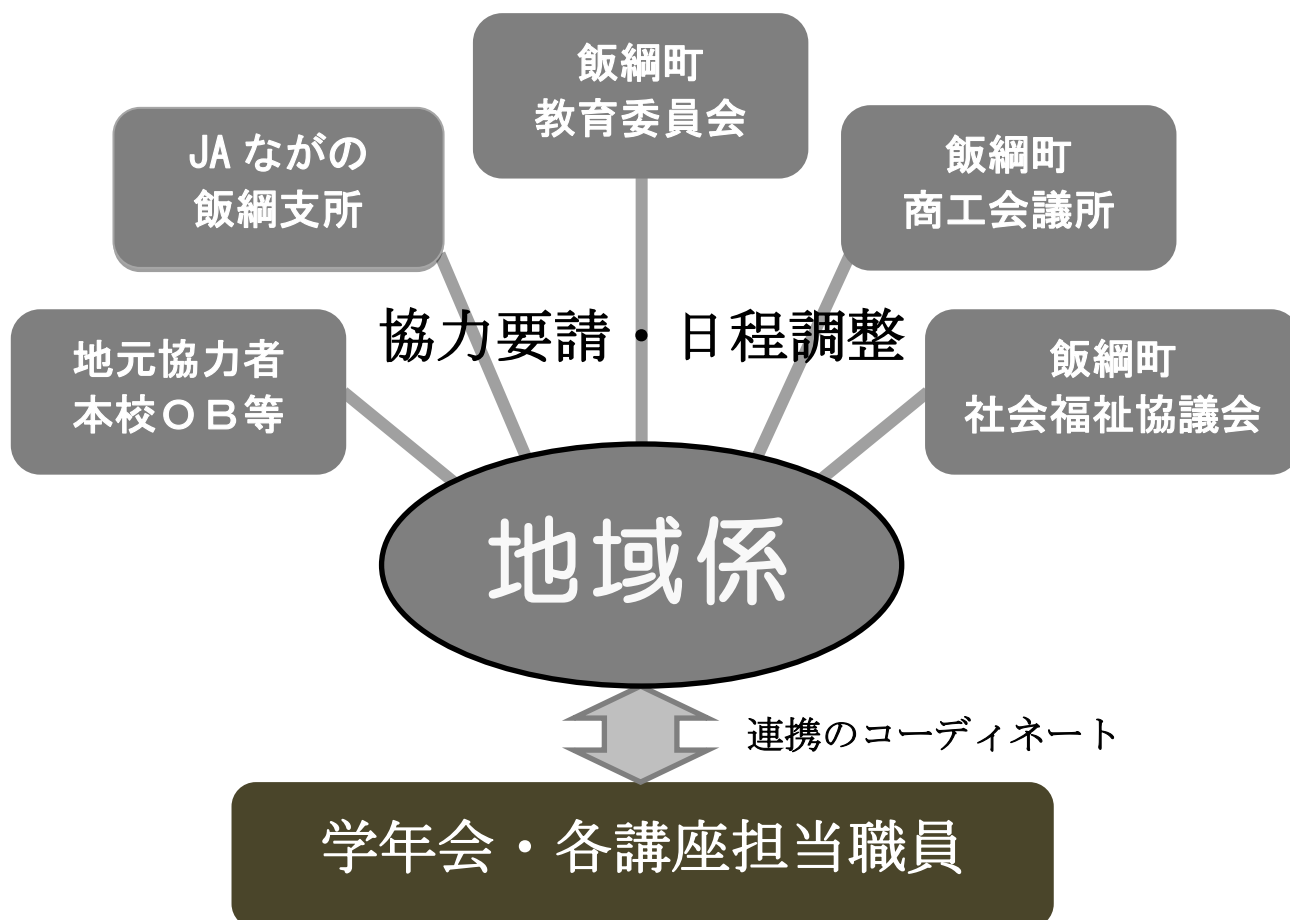
(3) 2年地域授業の実施経過

学期	月	日	曜日	講座名毎の実施内容				
				りんご栽培	超ボランティア	保育	地域の歴史	郷土料理研究
一学期	4	22	水	オリエンテーション				
				各講座毎に年間の活動内容についての打合せと個別の研究課題の決め出し				
	5	13	水	りんごの摘花	スマイルボーリング講習会	保育園実習	いづな歴史館・長谷寺見学	よもぎ摘み・下準備作業
				りんご園での実習	飯綱町社会福祉協議会の講師による実習	三水保育園での保育実習	現地見学・学芸員による指導	「だんだりの会」講師による指導
	6	10	水	りんごの摘果	福祉についての話	保育園実習	牟礼宿についての学習	よもぎ団子調理
				りんご園での実習	飯綱町社会福祉協議会講師による講話	三水保育園での保育実習	ふれあい歴史館学芸員による指導	「だんだりの会」講師による指導
	6	24	水	アップルミュージアム見学	スマイルボーリング通した高齢者との交流	保育園実習	牟礼宿調査	むじな団子講習・調理
二学期				個人研究テーマの選定	地元高齢者クラブの皆さんとの交流	三水保育園での保育実習	現地を訪問して調査・探索	「だんだりの会」講師による指導
	7	8	水	個人研究① テーマの決定	ボランティア体験	保育園実習	小玉古道を歩く 現地を訪問して調査・探索	郷土料理研究① 「だんだりの会」講師による指導
	9	9	水	進路学習②				
	9	16	水	個人研究② 調査研究	認知症講習会	子育て支援センター実習	関川関所について 現地訪問、地元専門家による講話	郷土料理研究② 「だんだりの会」講師による指導
	10	7	水	りんごの葉摘み作業 りんご園での実習	フロアホッケー講習会	幼児のおやつ・おもちゃ作り実習 野菜入りパンケーキの製作	牟礼宿を訪れた人々 社会科教員による講義	笹寿司講習・調理 「だんだりの会」講師による指導
	11	4	水	個人研究③ 選果場、市場、販売所の見学	フロアホッケー交流会	子育て支援センター実習 英語であそぼへの参加・自由遊び	称名寺見学 地元歴史家による説明・散策	やしよま講習・調理 「だんだりの会」講師による指導
	11	25	水	進路学習②				
三学期	12	2	水	修学旅行準備				
	1	20	水	りんご料理 課程か教員による指導・実習	若づくり大学との交流	保育園実習	箱膳の学習	箱膳の学習
	2	3	水	個人研究③ レポートのまとめ	支援施設見学	赤塩保育園での園児との交流 実習のまとめ グループワークによる活動のまとめ	リンゴパーク学芸員による指導 活動のまとめ グループワークによる活動のまとめ	リンゴパーク学芸員による指導 活動のまとめ グループワークによる活動のまとめ
	2	23	火	地域授業発表会準備				
	2	24	水					
	2	25	木					
	2	26	金					
	2	29	月					
	3	3	木	発表会準備・リハーサル				
	3	4	金	地域授業発表会				

※ 2学年の地域授業は、6つのコースに分かれ、同じ日に講座毎に分かれ、それぞれに学習を進めた。

※ 上の表の各実施日の上段は学習テーマ、下段に具体的な学習内容が記載した。

4. 実践研究の実施体制



校内における地域係は教務室に置き、次の業務を担当する。

- ・各年度の「地域授業」の内容を、学年の講座担当者と協議し素案を策定する。
- ・この素案に基づき、各関係機関及び地元協力者等と連絡を取り協力要請及び、日程調整を行う。
- ・「地域授業」開始後は、原則として、各講座担当職員と連携機関の担当者との間で連絡を取り具体的な講座を運営していくが、突発的な日程変更、内容変更等の窓口として対応する。

5. 教育委員会等として取り組んだ内容

- ・実践校に対して調査研究の充実に向けた指導・助言を行った。
- ・産業界、行政、学校の代表者が出席する会議において、調査研究結果を発表し、普及を図った。
- ・報道機関等への情報提供により広報活動を行い、実践校の調査研究成果の普及を図った。

6. 実践研究の評価等

本校の地域授業は1年次2単位、2年次1単位とし、日課をA、B2週用意することによって、1年については3時間、2年については2時間の連続授業日課を生み出し、校外での学習が可能な状況を生み出している。また、郊外への引率は同窓会所有のマイクロバスを活用している。さらに、地域の様々な団体との連携も、地元の地域高校を育てよ

うとする機運の中、非常にスムーズに進んでいる。一方で、1・2年で多様な学習プログラムを同時並行で企画実施をしていくことにより、地域授業担当の職員への負担が大きくなっていることも事実であり、この点についてより効率的な方法を考えていく必要があると考える。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：長野県北部高等学校（普通科）

概要

- 総合的学習の時間を活用し、地域の様々な教育資源を活用した「地域授業」の活動を通じて、生徒の自己肯定感を高め社会的自立を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

- (1) 1 年次地域授業
 - 地域授業の内容に興味・関心をもって積極的に参加できる態度を養う。
 - それぞれの学習内容の要点をまとめることができる。
 - 地域の様々な人々とのかかわりを通して生徒個々の自己肯定感を高める。
 - 自身の体験を分かりやすく他人に発表できる発信力を育む。
- (2) 2 年次地域授業
 - 1 年次の学習の経験を踏まえ、学習テーマを自主的に設定ができる。
 - それぞれの講座の研究活動において、具体的な活動計画の企画・立案ができる。
 - 学習内容を理解し、正確に記録しまとめることができる
 - さまざまな媒体を使い工夫して発表できる。
 - それぞれの講座の学習を通して、地域社会の一員としての意識を醸成する。
 - その上で、卒業後の参画へ向けての社会的自立力を育む。
- (3) 課外活動・クラブ活動
 - 地域授業の学習内容、講座内容に関連する地域の関連行事、講座に生徒を参加させることにより、社会参画意識の向上を図る。
 - 地域の人々との協同的な活動を通して、地域社会の一員としての地域への愛着と担い手としての意識を育む。

学習プログラムの主な内容

- (1) 1 年次地域授業
 - ① りんご栽培実習

本校近くのりんご園において、JA 営農指導員の指導のもと、春の摘花から秋の収穫までのりんご栽培にかかわる作業実習を行う。さらに、収穫したりんごの販売及びジュース等への加工について実習を行う。
 - ② 福祉体験

点字をテーマにした視覚障害についての理解や、手話をテーマとした聴覚障害についての理解を進める。さらに、デイサービスセンターへの訪問実習を通して高齢者福祉の現場についても理解を深める。
 - ③ 地域の歴史・文化

北信濃の歴史と文化について、歴史館の学芸員による講義をきっかけに、鍛冶屋体

験、座禅体験、そば打ち、おやき作り、わら細工作り、などを実際に地元の講師をお招きして体験的に学習する。

(2) 2年次地域授業

① リンゴ栽培

1年次に学習したりんご栽培実習の経験をもとに、りんごに関係した研究テーマを設定し、地元にあるりんごミュージアムの学芸員の指導のもと、探究的な学習を進める。

② ボランティア

飯綱町社会福祉協議会の協力のもと、1年次に体験した福祉について、実際に現場に訪問することによりより深く学ぶことを目的とする。また、交流会では、生徒が交流内容について自ら企画し実践する。

③ 保育

地元保育園の協力のもと、保育園実習を行うことにより、園児との関わり方、保育の実際を学ぶ。実習の場面においては、生徒自ら立案した企画を実践する。

④ 地域の歴史

北信濃地域の歴史を、いづな歴史ふれあい館での学習を起点として、地元の歴史研究家の指導のもと実際に現地に足を運ぶことにより体験的に学習を深める。

⑤ 郷土料理

地域に伝わる伝統料理を地元の料理研究グループ「だんどりの会」の方々や飯綱町食生活改善推進協議会の皆さんの指導のもと、実際に調理・試食を行うことで体験的に理解を深める。

(3) 地域授業発表会

1年間の学習の成果を、「社会と情報」との教科連携のもとプレゼンテーションや新聞の形にまとめ、その成果を「地域授業発表会」において地域に向け発信する。

学習プログラムの成果の概要

- 「地域授業」に対して、生徒、保護者ともに高い期待感と満足度を持っていること
- 「地域授業」を通して、地域の産業、文化、歴史についての知識理解が深まったと多くの生徒が感じていること
- 「地域授業」を通して、地域の方々とのコミュニケーションが多くなったと多くの生徒が感じていること
- 「地域授業」をきっかけとして、地域のイベント等の企画運営に積極的に関わろうとする生徒が増えてきていること